

Slovakia Opera 2019 in Yokohama

第一部 コンサートオペラ「トスカ」

(G.プッチーニ作曲 オペラ「トスカ」ダイジェスト版)

キャスト

トスカ (有名な歌姫)	パトゥリーツィア・ソロトゥルコヴァー(ソプラノ)
カヴァラドッシ (画家でトスカの恋人)	ドゥシャン・シモ (テノール)
スカルピア (ローマ市の警視総監)	シモン・スヴィトック (バリトン)

あらすじ

悲劇は1800年6月17日の朝から翌朝にかけてのことです。法王領ローマでは、共和国樹立も束の間、再び法王庁の圧政が幅を利かせています。

今脱獄してきた政治犯アンジェロッチェが、教会に逃げ込みます。そこに、この教会で聖母の絵を制作中の旧友、画家のカヴァラドッシがやってきて、二人は再会を喜びます。しばらくして、画家の恋人で、名高い歌姫のトスカも教会に入ってきたので、アンジェロッチェは慌てて隠れます。トスカは聖母が、ある美しい貴婦人に似ていることに気づき、二人の仲を疑って激しく嫉妬しますが、カヴァラドッシの説明に納得し、今晚の逢瀬を楽しみに帰ります。脱獄を知らせる大砲が鳴り響き、アンジェロッチェはカヴァラドッシがすすめる隠れ家に急ぎます。

今度は悪名高いスカルピアが教会にやってきて、カヴァラドッシが脱獄犯を逃がしたのではないかと疑い、逮捕します。カヴァラドッシが白状しないので、スカルピアは拷問に苦しむ彼の声をトスカに聞かせます。トスカはたまりかねて居場所を教えます。スカルピアはカヴァラドッシに銃殺刑を宣告し、トスカが助命を懇願すると、その代償として、自分の愛を受け入れることを要求します。そして、カヴァラドッシを見せかけの銃殺刑にして助ける、と約束して、国外脱出のための通行証を書いて見せます。

スカルピアがトスカを抱こうとすると、彼女は机にあったナイフでスカルピアを刺し殺します。

夜が明けて銃殺刑執行の時が迫ってきます。トスカは別れの挨拶の時、うまく死んだふりをすれば、二人で外国に逃げられる、とカヴァラドッシにささやきます。銃声が鳴り響き、カヴァラドッシは倒れますが、兵士がいなくなっても起きあがりません。そのときトスカは、スカルピアが自分をだまし、本当の銃殺を命じていたことに気が付きます。絶望の叫び声をあげて、トスカは城壁から身を投げます。

第二部 オペレッタと歌劇の名曲

1. W.A.モーツァルト:『フィガロの結婚』伯爵のアリア「訴訟に勝っただと！」 M.ポポヴィッチ
2. G.ドニゼッティ:『愛の媚薬』ネモリーノのアリア「人知れぬ涙」 M.ジメシ
3. G.ドニゼッティ:『ドン・パスクワレ』リーナのアリア「あの目に騎士は」 K.プロハースコヴァー
4. R.ワーグナー:『タンホイザー』ヴォルフラムのアリア「夕星の歌」 M.ポポヴィッチ
5. F.レハール:『微笑みの国』リーザとスー・チョンのデュエット
「私たちの心に愛を刻んだのは誰？」 K.プロハースコヴァー、
M.ジメシ
6. E.カールマン:『チャールダーシュの女王』フェリの歌
「さあ、ジプシーよ、バイオリンを手に取り」 M.ポポヴィッチ
7. F.レハール:『微笑みの国』スー・チョンの歌「君は我が心のすべて」 M.ジメシ
8. L.アルディーティ:「ロづけ」 K.プロハースコヴァー
9. F.レハール:『メリー・ウイドウ』ハンナとダニロのデュエット「唇は語らずとも」 K.プロハースコヴァー、
M.ジメシ
10. C.ミレッカー:『乞食学生』オレンドルフの歌「ああ、あのひとには肩にキスしただけ」
M.ポポヴィッチ
11. J.シュトラウス2世:『ウィーン気質』「ウィーン気質」 K.プロハースコヴァー、
M.ポポヴィッチ、M.ジメシ
12. J.シュトラウス2世:『こうもり』「兄弟よ、姉妹よ」 全員